



■ グリニッチ便り ■

Japanese Gospel Church of Greenwich

No. 167, 2013年12月号

グリニッチ福音キリスト教会

「きよしこの夜」とサザエさん

牧師 立石尚志

わが家では行儀が悪いことを重々承知の上で夕食時、サザエさんを見ています。以前は子供たちの祖父が日本でテレビ放映された物をDVDに録画して送付してきていましたが、時代も変わり、今ではYouTubeです。著作物をパソコンで見るのも若干抵抗があるのですが、娘がサザエさんの大ファンであり、少しでも子供たちの日本語保持に役立つなら、という思惑と、とにかく昔のものから最近のものまで幅広く見ることができ、日本社会の変遷、価値観の変化などが読み取れ、社会的な学びにもなる！という思いからつつい見せてしまっています。

近年の作品では、サザエさんだけが黒髪と終戦直後流行したらしい髪型を

キープしている中、登場する若いお母さんたちの髪色はみな明るめです。野球少年だったカツオ君は今ではサッカー少年へと変化をとげ、かつてヘビースモーカーだった波平さんもマスオさんもいつの頃からか禁煙家になっています。不動産屋の娘の花沢花子さんは原作漫画には登場しませんが、アニメでは不可欠な人物、実力派、強い女性、の代表選手みたいなどころがあります。さらに「躰」についても体罰、お仕置きがなくなり、対話中心の問題解決へと移行しているように見えます(どこの大学生が論文を書いているかも知れませんね!)

そんな中、未だYouTubeでお目にかかっていないのは、いその家が家族そろって大まじめにクリスマス賛美歌の「きよしこの夜」を歌っているアニメ

のエピソードです。子供の頃実際に見たのですが、カツオ君が例の声で「す〜くい〜のみ〜こは〜」と歌っていたのが今でも耳に残っているのです。サザエさんのような「日本的」な家庭でなぜ賛美歌なんか歌うのだろうか?と子供ながら不思議に思ったのをはつきり覚えています。近年のサザエさんでは、波平のご先祖様の霊が出てきたり、家族そろって墓参りに行ったりするなど純日本風の家族としてサザエさん一家描は描かれています。実はこの「きよしこの夜」については、社会の変遷、というのとは異なった理由があったと考えた方がいいのかも知れません。というのも、実は「サザエさん」の原作者、長谷川町子さんはクリスチャンだったのです。(裏面に続く)

「神様が用意してくれた道を信じて」 Y.E.姉 (グリニッチ教会OB)

2010年4月、ふと手にしたグリニッチ教会でのイースターイベントのちらしから教会に導かれ、2012年4月、2年間のグリニッチ教会生活が終わりました。

なにかに困っているから、なにかに頼りたいから、というような具体的なきっかけはありませんでしたが、日本にいるときから教会に行ってみようという思いもあったし、また実際に教会に行ってみると礼拝後はとても心が穏やかになりました。教会の居心地もよく、教会員の方々との楽しい交わりもあり、自然と毎週礼拝に行くようになりました。

2010年夏、O家との出会いがありました。O家の御主人は私の主人と同じ会社で、子供の年齢も近く、なによりもクリスチャンとしてしっかりと歩んでいらっしゃるご夫婦との出会いで、励まされ、ますます教会生活が楽しくなりました。そしてごく自然に神様と共に生きてゆきたいと思うようになりました。

2010年12月主人と共に受洗し、特に難しい問題もなく過ごしていました。すべてがとても順調でした。しかし、2011年秋ごろから私の視点から見ると「うまくいかない」と思うことが続きました。祈ってきたこと、すべての答えがNOとされているようでした。唯一、うまくいっていたことは娘の学校生活でした。初めてできたベストフレンドと呼べる女の子のお友達がきっかけとなり、本当に学校生活を楽しみ始めました。

そんな中、予想していたよりもかなり早い帰国の話がちらほら聞こえてきました。私自身もやっと慣れたアメリカにもっといたい、楽しくなってきた教会での奏楽奉仕ももっと続けたいという気持ちもあったし、なによりもうまく回り始めた娘の学校生活を続けさせてやりたいと思うと、悲しみでいっぱいになりました。考えれば考えるほど自分の視点からしか見ることができなくなりました。

2012年4月、帰任が決まり、主人は一足先に日本に帰りま

した。そしてすぐに義父の体調が思わしくないと連絡がきました。病気について全く知らなかったのととても驚きました。子供たちと私の本帰国が間近に迫っていたのですが、義父の状況は日々厳しくなっており、残された時間はかなり少ないようでしたので、一週間の予定で一時帰国しました。そんな中、夫が春に参加した「父の学校」でお世話になった福澤満雄先生に病院に来ていただき、義父にお話をさせて頂く機会が与えられました。義父の体調、私たちの一時帰国、そしてなによりもお忙しい福澤先生のスケジュール、すべてが揃うのは本当にピンポイントだったのですが、神様が整えてくださり、義父がしっかりと話せたギリギリのタイミングでしたが、はつきりと信仰告白をしました。ハレルヤ!

義父ももっと一緒に時間を過ごしたかった、孫たちの成長を見せたかったという気持ちは否めませんが、罪を赦され、永遠の命を与えられて天国にいる義父にまた再会できるという希望は私たちの励みであり、楽しみです。

このことを通して、神様はすべてをご存じで、私とは全く違う視点から導いてくださるのだからなにも心配することはない、信頼し、用意してくださる道をただ進んでいけばよいのだとわかりました。聖書に書いてある通りでした。

心を尽くして主に頼り頼め。自分の悟りに頼るな。自分の行くところどこにおいても主を認めよ。そうすれば、主はあなたの道をまっすぐにされる。(箴言3:5-6)

帰国後、本郷台キリスト教会に導かれました。グリニッチと違いとても大きな教会で、初めは自分の居場所がないように感じてしまいましたが、娘が本郷台のチャーチスクールに通うことになり、学校を通じて、またファミリーという小グループを通じて、ともに祈り、励まし合える友人がたくさんできました。悲しくて残念な気持ちで日本に帰国しましたが、神様はすべてを整えて用意してくださっていました。



私の家族や友人、まだ福音を聞いたことがないという人が大勢います。一人でも多くの人に伝えることができればと願っています。■

(「きよしこの夜」とサザエさん／表からの続き)

もともと長谷川町子さんの両親が聖公会のクリスチャンであり、町子さんは東京大学総長、矢内原忠雄が今井館聖書講堂で行っていた聖書講義に母親とそろって出席していたのだそうです。矢内原先生が初めて直接町子さんに会って言ったことは「ぼくの机の上に聖書と並べてサザエさんが置いておるのよ」であったとのこと。(『サザエさんうちあけ話』第29話、『思い出の人』矢内原忠雄先生)。もう一つ有名な話しは、町子さんは『のらくろ』で有名な田河水泡の内弟子となるため上京した際、日曜日には教会に行かせてもらうことが条件だったとのこと。町子さんの付き添いで教会に通い続けた田河水泡夫妻も、妻の高見澤潤子氏は2年後に、田河水泡氏自身は17年後にクリスチャンになったのです。高見澤邸がたまたま私の育った東京町田の実家の近所であり、子供の頃から「のらくろさんの家」がクリスチャンであったことは知っていましたが、長谷川町子さんが彼らを信仰に導くきっかけを作ったことはずいぶん後で知りました。

いずれにせよ、このような理由でサザエさんの漫画に時折キリスト教に関係ある話が出てくるのですが、もちろん宗教が全面に出てくるわけではありません。しかし、人がなぜ、サザエさんを見て、ホッとするのか、また、すっかりした気持ちで見終わることがで

きるのかについて考えてみると、そこにきちんとした道徳的、倫理的な基準があるからなのではないかと思うのです。ある宗教学者はサザエさんでは「悪いことをしたら必ずバレル」ことが重要なテーマになっていると言っていますが、この「バレル」ということこそ、すべてを見通しておられる神がいるという長谷川町子さんの世界観から来るものとも言えるでしょう。また、一つ一つの話しの内容を改めて眺めてみると、善と悪、愚かさや失敗、懲罰と赦し、忍耐と励まし、笑いと喜び、尊敬と信頼、友情と助け合い等々、人間生活において極めて重要な「良い価値」がストレートに描かれていることがわかります。この辺が、同じ人気作品であっても「斜に構えた」ちび丸ちゃんや、「ブラックユーモア／倫理的にクエスチョン」のクレヨンしんちゃんとは大きくかけ離れているように思います。つい先日亡くなった「アンパンマン」の作者のやなせたかし氏もクリスチャンとして聖書が教える価値観を土台に立っていたからこそ大人も子供も安心して見られるだけでなく、正しく勇気ある生き方を促す作品を生み出しつづけたのだと思います。

長谷川町子さんが、サザエさん一家に「きよしこの夜」を歌わせた背景には、自宅で毎年迎えていた本物のクリスマスを分かち合いたかったのではないかと私は密かに思っています。この

きよしこの夜

きよしこの夜、星はひかり
救いの御子は馬槽の中に

眠りたもういと安く

「御子」とは天地万物の支配者、父なる神の一人子、イエス・キリストのことです。「救い」：神に逆らい、罪に落ち、滅びに定められた全ての人にために、御子は自ら十字架にかかり、人の身代わりとなって刑罰を受けて死ぬために「人の子」としてこの世界に入って来られました。救いの道はそうにして開かれたのです。「馬槽」：御子は最も貧しい人たちに届くために家畜小屋というわびしい境遇の中に無力な赤子として生まれてきたのです。

きよしこの夜、み告げ受けし
牧人たちは 御子の御前に

ぬかずきぬ かしこみて

「牧人」：救い主誕生のメッセージを一番最初に天使から聞いたのは夜番の羊飼いたちでした。神は世の権力者ではなく、社会の最下層にいた人々に福音のメッセージを伝えることをよしとされたのです。

きよしこの夜 御子の笑みに
恵みの御代の 明日の光

輝けり ほがらかに

「恵みの御代」：救い主は十字架で死ぬだけでなく墓の中からよみがえり、天に昇られました。そしてこの世の終わりに再び戻って来られ、全人類を治める愛と正義の「王」になられるのです。その時、恵みと平和の「御代」が実現します。

「御子の笑み」にはその神の遠大な計画を思う神の喜びが表されていたのです。

賛美歌をご存知の方も多いと思います。日本語の歌詞と若干の解説を囲みに入れておきました。この曲のメッセージが皆様のものとなりますよう、お祈りしています。カツオ君の声での「きよしこの夜」ぜひお楽しみください！■

2013年 冬の集会・行事予定

※ 下記以外にも週の間、入門クラス、聖書の学び会が定期的に行われています。お問い合わせください。

【定例集会】

- ★ 日曜礼拝／10:00～11:30
メッセージは託児室でモニターを通して聞く事ができます。
- 礼拝後 グループ会／12:15 まで
大人、子供それぞれのクラスに分かれます
- ★ ウェルカム礼拝／毎月最終日曜
- ★ 祈禱会／水曜日 10:00～12:00

【各種集会】

- ★ ハリソン 聖書を読む会
隔週火曜 10:00am 場所:ハル長老教会
- ★ スタンフォード 聖書を読む会
隔週水曜午後 1:15 場所: 井上宅
- ★ ハートフォード 聖書を読む会
隔週月曜午前 10:00
毎週木曜午前 場所はお問合せください

- ★ グリニッチ 聖書を読む会
現在調整中です
- ★ グリニッチ グリニッチ家庭集会
現在調整中です
- ★ マウントキスコ 聖書を読む会
毎週水曜 8:00pm 場所:平野宅
- ★ ビジネスピープル・バイブル・フェローシップ
金曜日 8:00pm 場所:教会図書室

● ウェルカム礼拝 12/29(日) 10:00～11:30 お話: 山口雅明さん

ウェルカム礼拝は初めて礼拝に来られる方、キリスト教に関心ある方にとって入りやすい内容で構成しています。29日はBriareliffでユニークな寿司とケーキの店「JIKI」を運営されている山口さんがお話ししてくれます。

● 子供クリスマス会 12/8(日) 午後2時～3時半

対象: 幼稚園児から小中学生、クリスマス降誕人形劇、クリスマスのお話、ゲーム、プレゼント! 楽しいよ!

● クリスマスの夕べ「音楽のおくりもの」 12/15(日) 午後5時～7時

前半はNY男声合唱団、花みずき、後半はハワイの中村裕二夫妻によるクリスマス音楽バラエティーになります。

《教会住所》グリニッチ福音キリスト教会 (Japanese Gospel Church of Greenwich)、牧師 立石尚志
c/o St. Paul Ev. Lutheran Church, 286 Delavan Ave. Greenwich, CT 06830 website: www.jgclmi.com
《問い合わせ》 教会 TEL/FAX (203) 531-6450、牧師宅 TEL/FAX (203) 531-1609, e-mail: church@jgclmi.com

